



## Topics

### 建設業の魅力を広く発信 ～宇都宮文星女子高生に現場見学会～

【本部】



栃木県建設業協会は令和8年3月12日に宇都宮文星女子高校の2年生を対象に現場見学会を開催しました。この見学会は建設業の仕事の内容や女性が働きやすい環境となっていることなどを、建設業になじみのない高校生にも広く知っていただくことを目的として行われ、今年で2回目の開催となります。

建築は平出工業団地内の「三和生薬」の現場で行われ、担当した渡辺建設(株)建築部の杉浦昂志主任が現場ならびに会社の概要、施工管理の仕事内容等を説明し、3DCADでの図面を見ていただいた後、実際の現場の見学に入りました。



土木では「板戸大橋下部工」の現場を見学し、事業についての説明を受けた後、重機体験やVR、AR体験、測量の体験、ドローン操縦の見学などを実施しました。

昨年実施した見学会でのドローン操縦の印象が強く残っていたことが

きっかけで、本年3月の卒業生で1名が建設業に就職したとのことで、本見学会が建設業の現状を正しく理解していただく良い機会となっていることが確かに感じられました。

(岩原産業(株) 岩原正樹)

### 都心環状線が全線開通 県庁前亀の甲坂と裁判所前の材木町通りを結ぶ 320m

【宇都宮支部】



通り初め式 (日本工業経済新聞社提供)



令和8年3月28日、宇都宮市小幡・清住土地区画整理事業地内および県総合文化センターで「3

環状12放射道路の概成記念」として記念式典が執り行われました。唯一未開通であった都心環状線(宇都宮日光線・埴田平出線)が、小幡・清住土地区画整理事業の進展により開通したもので、構想から約40年を経て宇都宮市の都市構造を支える3環状12放射道路が全線つながりました。

通り初め式は佐藤栄一宇都宮市長、福田富一栃木県知事、船田元衆議院議員、上野通子参議院議員、関谷暢之県議会議長、岡本芳明市議会議長によるテープカット、関係者によるくす玉開披を行い、ネットワーク型コンパクトシティの形成に大きく寄与する道路の無事完成を祝いました。また、開通式では佐藤栄一宇都宮市長が「3環状12放射道路は将来の宇都宮市の発展を支える強固な土台。最大限に生かしながらLRTの西側延伸を着実に進め、誰もが豊かで安心して暮らすことができるスーパースマートシティの実現に一層取り組んでいく」と挨拶しました。

(岩原産業(株) 岩原正樹)



## 鹿沼さつきマラソン クリーンアップ作戦

【鹿沼支部】



令和8年5月8日、鹿沼支部員25社が参加し「鹿沼さつきマラソンクリーンアップ作戦・愛ロードとちぎ」を実施しました。本活動は鹿沼市からの依頼により、5月10日に開催される第46回鹿沼さつきマラソン大会を前に、多くのランナーや来訪者を気持ちよく迎えるため、マラソンコース周辺の清掃や安全点検を行うものです。

当日の開会式には松井正一鹿沼市長にご臨席いただき、日頃からの建設業への感謝と、クリーンアップ作戦への激励のお言葉を頂戴しました。今年の大大会には約7,000人が参加予定であり、全国から多くのランナーが鹿沼市を訪れるとのことです。



開会式終了後は4班に分かれ、コース沿線の除草やごみ拾い、道路の安全確認を実施しました。地域の皆さまに安全・安心な道路環境を提供することも、建設業の大切な役割であることを改めて実感する活動となりました。

(株)安中建設 荻村真紀

## 情報伝達訓練を実施

【日光支部】



日光支部では、災害対応力強化を目的に、建設市場整備推進事業補助金を活用してドローン及び電子ホワイトボードを導入し、令和7年12月20日に情報伝達訓練を実施しました。訓練には正副支部長、理事、技術委員など16社24名が参加しました。



ドローン

訓練では、集中豪雨により国道120号いろは坂付近での土砂流出、国道122号足尾地区での法面崩壊、赤堀川の護岸流出が発生したとの想定のもと、ドローンによる危険箇所の確認や電子ホワイト

ボードを活用した映像共有、情報収集を行いました。

今回導入したドローンは、平成29年に購入した既存機の老朽化及び修理対応終了に伴い更新したものです。また、電子ホワイトボードはカメラやマイクを内蔵し、従来より容易にオンライン会議を行うことが可能となりました。

訓練を通じて各機器の有効性と機能性を確認することができました。今後は防災訓練や実際の災害対応に積極的に活用し、迅速な情報共有と復旧活動につなげていきたいと思っています。

(株)阿部工務店 阿部弘道





## 支部創立 100 周年 記念イベントの開催

【芳賀支部】



令和 7 年 11 月 8 日、支部創立 100 周年を記念して「建設業と未来にはばたく子どもの広場」を開催しました。地域の園児たちに建設業への理解と親しみを深めてもらうことを目的に、建設車両のお絵描き大会と建設機械乗車体験、飲食コーナーを組み合わせた催しとなりました。

まず、芳賀建設会館駐車場に展示した建設車両を画用紙いっぱい描いてもらいました。作品は後日、外からも見られるように会館ロビーに展示したところ、子どもらしい自由な発想で描かれた働く建設機械の姿に、足を止めて見入る大人の姿もありました。

建設機械の乗車体験では、バックホウの運転台に初めて座った子どもたちからは「大きくてかっこいい」といった声が聞かれ、建設業に対する憧れや関心の高まりが伺えました。一方、高所作業車の搭乗体験では、園児より保護者のほうが楽しんでいるようでした。

また、焼きそば、ポップコーン、水ヨーヨーなどの模擬店も出店し、親子で飲食を楽しみながらゆったりと過ごせる場を提供しました。

多くの家族連れでにぎわい、地域に開かれた 100 周年事業として一定の成果を収めることができました。



(鶴見建設(株) 上澤宏行)

## 巴波川捷水路工事 親子で見学会

【下都賀支部】



令和 8 年 5 月 30 日、栃木土木事務と永野川・巴波川改良復旧工事等安全協議会および奥村・岩田地崎特定建設工事共同企業体による、一級河川巴波川地下捷水路本体建設工事の第 2 回現場見学会を開催しました。

午後の部では親子見学会として、小中学生とその保護者 100 名が参加し、普段は見ることのできない捷水路内部を 1 km 歩くという貴重な体験内容でした。



参加者はヘルメット・説明を聞きやすくするイヤホン装着し、工事内容について奥村組の担当者によるモニターを使った丁寧な説明を受けて体験スタート。



立坑の深さや工事用エレベーターなどに子どもたちは興味津々な様子でした。



捷水路内を歩くと、参加者は「すごいね!」「探検してるみたいだね!」など盛り上がり、大規模工事の迫力を感じている様子でした。

見学会の最後にはセグメントへのお絵描きイベントを実施し、親子で楽しそうに絵を描く姿も見られました。

見学会後の参加者に感想を聞くと「トンネルが広くて迫力がすごかった。」「自分もこういう仕事をしてみたい」「この水路で災害が減れば嬉しい」など、実りある体験だった様子で、今後の建設業の未来にもつながる充実した見学会になったと思います。(㈸町田建設 臼井祐輔)



## Topics

### 水防及び地震情報伝達訓練実施 (道路河川等管理情報システム使用)

【塩谷支部】



塩谷支部対策本部情報確認

令和8年6月11日、塩谷建設会館で水防及び地震情報伝達訓練を実施しました。塩谷支部、矢板土木事務所、建設コンサルタンツ協会関東支部合同により約60人が参加し、道路河川等管理情報システムの操作や災害発生時における初動対応の情報共有体制を確認しました。

局地的豪雨で矢板市、さくら市、高根沢の一部の河川で氾濫注意水位に達し、さくら市で震度5強を観測したと想定し、訓練が行われました。矢板土木事務所長から渡邊支部長にパトロール実施と状況報告の指示要請があり、支部の現場担当者が4市町37カ所の河川及びさくら市の5橋梁の状況を撮影して管理情報システムにより送信、現場担当者からの伝達と対策本部の情報収集も円滑かつ効率的に行われ、情報の共有化を図ることができました。



矢板土木事務所対策本部情報確認

訓練を通じて、関係機関相互の情報共有手順の再確認が図られたほか、災害発生時における迅速な初動対応の重要性を改めて認識することができました。

今後も継続的な訓練を実施し、より実践的な災害対応能力の向上を図るとともに、地域住民の安全確保に向けた防災体制の強化に努めていきたいと思います。  
(友建工業(株) 小菅秀樹)

### 稚魚放流 (地域貢献)

【那須支部】



令和8年4月21日、大田原市黒羽地内の那珂川で6月の鮎釣り解禁に向けた「鮎の稚魚放流」が行われました。



本年は黒羽小と川西小の児童・教職員合わせて56名の参加があり、子どもたちが命・自然の大切さや、環境への関心を高めると同時に建設業への興味を少しでも持つため実施しました。那珂川北部漁業協同組合からの増殖依頼もあり、漁協と連携し地域貢献の一環として放流事業に協力を行っています。

今回放流された稚魚は那珂川天然遡上アユから採卵されたF3(三代目)となっており、約1万匹が放流されました。

那珂川の鮎は地域の観光資源としての要素も大きく、地域の活性化に少しでもお役に立つものと考えております。

子どもたちと一緒に放流事業を行うことは、環境を大切にし、地域の発展、雇用を創出する建設業の役割をPRする良い機会と捉えております。

(株)館林工業 館林貴之





## 大規模災害を想定した 合同情報伝達訓練に参加

【安蘇支部】



安蘇支部は令和8年5月27日、栃木県が実施した「大規模災害時における公共土木施設の復旧体制に関する合同情報伝達訓練」に参加しました。

訓練は、佐野市で震度6強の地震が発生したという想定のもと、道路、河川、砂防、上下水道施設などに被害が発生した場合の情報共有や連携体制の確認を目的として実施されています。



支部は、一級河川秋山川で大規模な斜面崩壊による河道埋塞が発生した想定において、ドローンを活用した被災状況確認の役割を担当しました。現地上空から撮影した映像を関係機関へ共有し、被害の規模や状況を迅速に把握するための情報提供を行いました。

災害発生時には、現場の状況をいち早く正確に把握し、復旧活動につなげることが重要です。特に近年は、ドローンによる空撮が安全かつ効率的な情報収集手段として活用されており、建設業に求められる役割もますます大きくなっています。支部では、今回の訓練で得られた経験を生かし、関係機関との連携強化と地域の防災力向上に引き続き努めてまいります。

(岡田土建(株) 石澤洋幸)

## ICT 講習会の開催

【足利支部】



これまで、足利支部では地元の晃洋設計測量(株)との業務委託契約に基づき、ドローンやICT等を積極的に活用するための取り組みを進めてきました。

その一環として、令和5年度から6年度にかけて支部独自の講習会を開催し、すべての会員企業にドローンの国家ライセンスである「二等無人航空機操縦者技能証明」を取得していただきました。

さらに、今年度は6月から10月にかけて、ドローンやICTを活用した測量、設計データ作成、出来形管理等の講習会（全4講座、1講座につき同様の内容の講習会を2回開催）を開催します。その1回目として、6月16日(火)及び18日(木)には総勢37名の方々に對し、講義形式の座学「ICT施工の概要」、実習形式の実地講習「GNSSやレーザ機器を使用した測量実習」を実施しました。



引き続き、会員企業の皆様とともに、各種業務にドローンやICT等を積極的に活用できるよう努めてまいります。

(三興工業(株) 山根良樹)